

令和6年産水稻の10a当たり平年収量 に係る生産事情（都道府県別）

大臣官房統計部

令和6年3月12日

農林水産省

令和6年産水稻の10a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
北海道	○ 「ななつぼし」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。	○ 健苗の育成を図り、良質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 育苗管理の徹底 ・ 深水管理とそれを可能とする畦畔整備 ・ 地力増進やほ場の透水性改善 ・ 防風対策等の栽培環境整備 ・ 適正施肥などの基本技術を守った栽培管理 ・ いもち病予防のための薬剤等による種子消毒の徹底 ・ 土壌診断に基づいた適正な指導 ○ 成苗の普及など安定生産に向けた栽培技術が定着している。
青森	○ 「まっしぐら」を中心とする品種構成となっている。「青天の霹靂」、「はれわたる」が増加傾向となっている。	○ 「青天の霹靂」ブランド力の強化。 ○ 良食味・高品質生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適地・適品種の作付誘導 ・ 高温や低温等気象変動に対応した適正な水管理や適期刈取等の徹底 ・ 施肥管理 ・ 斑点米カメムシ類等の防除の徹底 ○ 低コスト技術の普及拡大 ・ ドローン等の最先端省力化農業機械の導入 ・ 直播栽培 ・ 疎植栽培等 ○ 堆肥などの有機物の施用により土壌の生産力を高めるとともに肥料の種類や施肥法の改善により化学肥料の施肥量を削減
岩手	○ 「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県のオリジナル品種である「銀河のしずく」が、耐冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。	○ 高品質・良食味米生産の基本となる技術の励行のため、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植・防除・収穫 ・ 適正な栽植密度・施肥・水管理 ・ 直播栽培の拡大 ○ 化学肥料の施肥量を低減する資源循環型農業の推進として、耕畜連携により有機質肥料の利用を促進 ○ 共同利用施設の利用率を高め、出荷時の県産米品質の均質化を徹底
宮城	○ 「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。	○ 高品質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 有機栽培米の取組推進 ・ 高温登熟による品質低下への対策として晩期栽培（遅植え）の推進 ・ 適正な水管理、土づくりの励行、適正な栽植密度・肥培管理等 ・ 大規模化に対応した熟期の異なる品種構成の導入等の推進
秋田	○ 「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。	○ 「サキホコレ」ブランド確立 ○ 気象変動に対応した強い稲づくり、食味・品質の一層の向上及び安定化を図るため、以下の指導が行われている。 ・ 土づくりの推進、適期移植と栽植密度の適正化 ・ 適正な水管理、雑草防除の徹底 ・ 適正な施肥管理 ・ 台風等による被害対策 ・ 適期の刈り取りと乾燥調製

令和6年産水稻の10a当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
山形	○ 「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。 ○ 新品種「雪若丸」は増加傾向にある。	○ 高品質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 土づくりの推進、健苗育成、適正な水管理・施肥の徹底 ・ 土壌診断に基づくリン酸、カリ等の適量施肥等
福島	○ 「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。 ○ 近年、収量水準の高い「天のつぶ」が定着している。	○ 高品質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 品種の市場性、冷害危険度等を総合的に考慮した適地適作の推進 ・ 土壌診断に基づくカリ施用、堆肥の施用による土づくり、緩効性肥料使用時の適切な追肥等の指導 ○ 放射性物質の吸収抑制対策は前年同様に実施
茨城	○ 「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成で、近年、多様な多収米への作付け移行が進んでいる。	○ 高品質米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適期・適切な中干しによる茎数管理 ・ 適期収穫と適正乾燥・調製 ・ 健全な土づくり
栃木	○ 「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。 ○ なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。	○ 品質向上や良食味米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 需要に応じた生産のため、品種別の推進目標の設定 ・ 高温障害等回避のため、移植時期の分散化 ・ 生育診断に基づく適正な肥培管理
群馬	○ 「あさひの夢」、「コシヒカリ」、「ゆめまつり」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 夏場の高温対策として、高温登熟の回避や高温に強い稲体づくりの徹底等の指導が行われている。 ・ 適期移植と水管理 ・ 土づくりの推進と適期、適量施肥 ・ 早期落水の防止
埼玉	○ 「コシヒカリ」、「彩のかがやき」及び「彩のきずな」を中心とする品種構成となっている。 ○ 近年、収量水準の高い「彩のきずな」への転換が進んでいる。 ○ 業務用の多収性品種が増加している。	○ 品質・食味向上及び安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 栽培基準や栽培指針に準じた肥培管理の徹底 ・ 夏場の高温対策として、水管理の徹底、適正な施肥の実施及び適期収穫の指導
千葉	○ 「コシヒカリ」、「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっている。 ○ 令和2年産から新品種「粒すけ」の本格栽培が開始	○ 近年、異常気象が続いている中、気象条件に強い稲作りに向け、以下の指導が行われている。 ・ 植付作期の早限の厳守 ・ 適正な水管理、適正な防除 ・ 耐病性、耐倒伏性、品質向上のためのケイ酸の補給
東京	○ 「キヌヒカリ」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	
神奈川	○ 「はるみ」、「キヌヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年、「はるみ」が増加傾向にある。 ○ 「てんこもり」が令和3年に県の奨励品種に採用された。	○ 良質・良食味米の生産に向け、登熟歩合の向上や登熟期間の障害低減のための穂肥適期施用等の指導が行われている。

令和6年産水稻の10a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
新 潟	○ 「コシヒカリ」及び「こしいぶき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきん子舞」、「つきあかり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。 また、県では新品種「新之助」（晩生種）の作付拡大を推奨している。	○ 高品質・良食味米生産推進のため、以下の指導が行われている。 ・ 品質低下等のリスク分散を図るため、複数品種の導入、播種・移植時期の分散 ・ 田植え時期に合わせた適期播種 ・ 適期の中干し・溝切りの実施 ・ 生育診断に基づく適正な穂肥施用
富 山	○ 「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温登熟でも品質が安定している「てんたかく」及び「てんこもり」、県のトップブランドに位置づけている「富富富」が増加傾向にある。	○ 高温に打ち勝つ米づくりに向け、以下の指導が行われている。 ・ 高温登熟の回避として適期移植の実施 ・ 高温に打ち勝つ稲体づくりとして、適正穂数に向けた栽培密度（70株/3.3㎡）の確保、適期・適切な中干しの徹底 ・ 土壌診断に基づく土づくりの実施・基肥の適正な施用
石 川	○ 「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成であるが、近年、県オリジナル新品種の「ひやくまん穀」が増加傾向にある。	○ 高品質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適正穂数（栽培密度）の確保 ・ 肥料の適期・適量施肥 ・ 適期収穫 ・ 土づくり等の推進
福 井	○ 「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成である。 なお、新品種である「いちほまれ」が増加傾向にある。	○ 適切な土づくりと水管理の徹底 ○ 高温登熟回避による品質向上を図るため、適期移植等の指導が行われている。
山 梨	○ 「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。	○ 高温による品質低下防止のため、以下の指導が行われている。 ・ 適期は種、適期移植 ・ 適正な水管理 ・ 適期収穫
長 野	○ 「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。 県のオリジナル品種「風さやか」の導入を推進している。	○ 食味向上に向けた適量施肥 ○ 高温登熟障害（胴割米、白未熟粒）防止のための適切な水管理、適期収穫等 ○ 低コスト稲作推進のため、疎植栽培等の指導
岐 阜	○ 売れる米づくりと高品質安定生産の面から、「ハツシモ」、「コシヒカリ」は一定の作付けが維持される一方、「ひとめぼれ」及び「あさひの夢」が減少傾向にある。	○ 温暖化傾向に対応するため、以下の指導が行われている。 ・ 疎植栽培の普及 ・ 緩効性肥料の導入 ・ 適正な肥培管理 ・ 適期収穫
静 岡	○ 「コシヒカリ」、「きぬむすめ」及び「あいちのかおり」を中心とする品種構成である。 近年、「きぬむすめ」が増加傾向にあり、「あいちのかおり」が減少傾向にある。	○ 売れる米づくり及び省力・低コストのため、以下の指導が行われている。 ・ 健苗育成、追肥（穂肥）の適量・適期の徹底 ・ 適期防除・適期刈取り ・ 基肥一発肥料（側条施肥）導入や疎植栽培の拡大による育苗箱数削減
愛 知	○ 「コシヒカリ」及び「あいちのかおり」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 高品質米生産に向けて、施肥改善と基本技術の励行 ○ 過剰な生育を抑制するため、適正な栽植密度の確保等
三 重	○ 「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 白未熟粒対策のため、品種に応じた適期・適量施肥等の指導が行われている。
滋 賀	○ 「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「みずかがみ」及び「日本晴」を中心とする品種構成である。 近年、高温登熟性に優れた「みずかがみ」の作付けが推進されている。	○ 収量向上と外観品質の安定化に向け、以下の指導が行われている。 ・ 生育状況に応じた施肥や水管理 ・ 品種特性や土壌条件等に応じた適切な栽植密度の選択 ・ 有機物や土壌改良資材の施用による土づくり

令和6年産水稻の10a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
京 都	○ 「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 緩効性肥料の施用 ・ 適期移植、疎植
大 阪	○ 「ヒノヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品種別、地域別に適期移植、水管理の適正化、合理的施肥、適期収穫等の指導が行われている。
兵 庫	○ 「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。 ○ 「きぬむすめ」の作付拡大を推進している。	○ 良質米生産に向け、環境創造型農業を基本に品種別に以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適期・適量施肥
奈 良	○ 「ヒノヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上といもち病回避のため、減肥栽培の指導が行われている。
和歌山	○ 「キヌヒカリ」、「きぬむすめ」、「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。なお、近年「きぬむすめ」、「にじのきらめき」が増加傾向にある。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適量施肥
鳥 取	○ 「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。「星空舞」が増加傾向にある。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 土づくりの徹底 ・ 適期移植 ・ 施肥の改善 ・ 適正な水管理 ・ 適期の病害虫防除等
島 根	○ 「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成であるが、近年、「コシヒカリ」が減少傾向、「きぬむすめ」及び「つや姫」が増加傾向にある。	○ 高品質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 健苗の育成 ・ 地域別・品種別適期移植 ・ 適正な肥培管理
岡 山	○ 「アケボノ」、「きぬむすめ」、「コシヒカリ」、「あきたこまち」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。	○ 良質米生産及び安定生産に向け、以下の指導を行っている。 ・ 生育状況に応じた施肥管理 ・ 高温下での登熟回避のための適地適作 ・ 適正な水管理
広 島	○ 「コシヒカリ」、「あきさかり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。	○ 需要に応じた生産に向け、以下の指導を行っている。 ・ 良好な管理が行われているほ場の作付けの維持・拡大 ・ 低コスト化技術（密苗栽培、疎植栽培、直播栽培等省力栽培）の導入
山 口	○ 「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年「きぬむすめ」及び「恋の予感」が増加傾向にある。	○ 品種特性に応じた栽植密度の確保 ○ 中干し等水管理の徹底 ○ 気象条件にあった施肥管理等の指導が行われている。
徳 島	○ 「コシヒカリ」及び「あきさかり」を中心とする品種構成である。	○ 早期・普通期とも疎植栽培の推進 ○ 食味の向上や倒伏による品質低下防止のため、適期・適量施肥等の指導が行われている。
香 川	○ 「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」、「あきさかり」及び「おいでまい」を中心とする品種構成である。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適正な水管理 ・ 適正な株間での適期移植 ・ 適量施肥 ・ 適期の病害虫防除等

令和6年産水稻の10a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
愛媛	○ 「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」、「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。 ○ 「ヒノヒカリ」から「にこまる」、「ひめの凛」への品種変更が定着してきている。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適正な水管理 ・ 生育後半まで肥効を維持させる
高知	○ 早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適正な肥培管理、水管理、適期防除、適期刈取。 ・ 高温障害対策として、早期栽培では収穫前の水管理の徹底、普通期栽培では適期移植（移植時期を遅らせる）。
福岡	○ 「ヒノヒカリ」、「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「元気つくし」が増加傾向となっている。県では、「実りつくし」の拡大を推奨している。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 中干し・間断灌水・落水時期の適正化 ・ 土壌診断・施肥基準に基づく適正な施肥
佐賀	○ 「さがびより」、「夢しずく」、「ヒノヒカリ」及び「ヒヨクモチ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 品種特性に応じた移植時期の徹底 ・ 生育ステージに応じた施肥管理、水管理 ・ 病害虫の適期防除の推進
長崎	○ 「ヒノヒカリ」、「なつほのか」及び「にこまる」を中心とする品種構成である。 ○ 県は「なつほのか」を奨励品種としており、増加傾向にある。	○ 品質に加え、食味に重点をおいた栽培指導（適正な肥培管理等）
熊本	○ 「ヒノヒカリ」、「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。 ○ 「くまさんの輝き」はリーディング品種として取扱いが年々拡大している。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 高温時期の登熟障害回避のための適期移植（遅植栽培）の推進 ・ 水管理・追肥等の改善 ・ 土壌改良資材の投入
大分	○ 「ヒノヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。 ○ 「なつほのか」への作付け誘導が進められている。	○ 高品質、良食味米生産を基本とし、効率的な生産体制の整備による低コスト生産を推進するため、以下の指導が行われている。 ・ 担い手への農地集積。 ・ 乾田直播等の新技術や多収品種の導入による生産コスト削減。 ・ 夏期高温によりヒノヒカリの品質低下が問題となっている地域における移植時期の適正化等。
宮崎	○ 「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。 ○ 「み系358」への作付誘導が進められている。	○ 移植時期の後進化 ○ 土壌診断に基づく適正施肥 ○ 播種量・育苗期間等の指導
鹿児島	○ 早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。 ○ 早期栽培では、収量水準の高い「なつほのか」への移行が急速に進んでいる。	○ 良品質米の生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 健全な土づくり ・ 適期植付・防除・収穫 ・ 適正な栽植密度・施肥・水管理
沖縄	○ 「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 肥培管理・防除等の指導